



# 第 8 回韓国スタディツアー報告書 2014

杉並ユネスコ協会

日本ユネスコ協会連盟「2014 年度青少年ユネスコ活動助成」支援事業

## はじめに

---

杉並ユネスコ協会では韓国の歴史と文化を学ぶ青年部主体の「韓国スタディツアー」を2006年より毎年実施しています。これまで当協会では韓国に関する講演会や韓国語講座を開催するなど、韓国について理解を深める活動をおこなってきました。その目的は、現在のギクシャクする日韓関係を草の根レベルの交流を通じて改善していくことです。

今回で8回目となる本ツアーは、当協会の青年が自ら現地を訪れ現地の人と直接話すことで、ありのままの“韓国”を体験するものです。将来の日韓友好を築くための土台として、青年による自主的な学習が非常に重要であると考えています。ツアーのテーマは「平和学習」と「異文化理解」の2つであり、それぞれ次のような内容となっています。

### ■ 「平和学習」

日本と韓国あるいは朝鮮半島で起こった戦争について学び、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えます。具体的には、日本が韓国併合時に建設した刑務所跡を見学することで“加害者としての日本”を認識したり、南北朝鮮国境付近の「非武装地帯」および「第3トンネル」を訪れることで、民族分断の悲しい歴史を追体験したりします。

### ■ 「異文化理解」

韓国の伝統文化や若者文化に直接触れることで、韓国人の物の見方・考え方について理解を深めます。今回は韓国ユネスコ協会連盟のご協力により、韓国青年と「日韓文化の比較」をテーマとしたディスカッションをおこないました。若者ならではの忌憚のない意見交換を通じて、さまざま切り口から韓国文化を学びます。

本報告書は、2014年12月末に実施した「第8回韓国スタディツアー」の内容を記したものです。全体は3章構成となっており、第1章では訪問先の紹介、第2章ではツアー報告会の様子、第3章では参加者の感想が書かれています。本報告書を通じて、当協会の国際理解に対する取り組みについてご関心を寄せていただければ幸いです。なお、本ツアーは日本ユネスコ協会連盟の「2014年度青少年ユネスコ活動助成」の支援を受けて実施しました。この場を借りて、同連盟に心より御礼申し上げます。

岩野 智

# 目次

---

はじめに

ツアーの概要..... 1

## 1 訪問先の紹介

(1) 西大門刑務所歴史館..... 4

(2) DMZ・第3トンネル..... 6

(3) 韓国青年とのディスカッション..... 8

## 2 ツアー報告会

(1) 報告会の内容.....12

(2) 来場者の感想.....13

## 3 参加者の感想

(1) 小林 穂菜美.....16

(2) 井口 大夢.....17

(3) 岩野 智.....18

(4) 板倉 徳枝.....19

(5) カン ミンジ.....20

写真.....21

あとがき.....22

## ツアーの概要

### ■滞在先・期間

大韓民国ソウル特別市

2014年12月27日(土)～30日(火)

### ■宿泊先

Hotel President (ホテル・プレジデント)

ソウル特別市中区乙支路1街188-3



### ■行程

12月27日(土)	12月28日(日)	12月29日(月)	12月30日(火)
8:00 羽田空港集合	8:00 ホテル発	9:30 ホテル発	9:00 ホテル発
10:00～12:20 アジアナ航空	8:10 ロッテホテル着	9:50 ユネスコビル着	9:10～12:00 市庁内見学、徳寿宮
OZ1055 便	8:30～14:30 DMZ・第3トンネル	10:00～11:30 韓国青年とのディス	見学
13:30 金浦空港より空港鉄	バスツアー(臨津閣	カッション	12:00～13:00 昼食
道・地下鉄にて「市	公園、自由の橋、統	12:00～13:30 昼食(韓国ユネスコ	13:00 ホテル発、「乙支路
庁」駅下車	一大橋検問、南侵第	協会連盟の接待)	入口」駅より地下鉄
14:30 ホテル着	3トンネル、DMZ映	14:00～15:30 韓国青年とのディス	乗車
15:00～17:00 景福宮・国立民俗博	像館・展示館、都羅	カッション(続き)	13:50 金浦空港着
物館見学	展望台、都羅山駅)	16:00～20:00 夕食、汝矣島・ソウ	15:50～17:55 アジアナ航空
17:30～19:30 夕食、明洞散策	15:00～17:00 西大門刑務所歴史館	17:30～19:30 夕食、弘大散策	OZ1045 便
20:00～21:00 ミーティング	見学	20:30～21:00 ミーティング	18:30 羽田空港にて解散

## ■参加者

団 長	岩野 智
青年部	小林 穂菜美
青年部	井口 大夢
理 事	板倉 徳枝

## ■会計報告

決算 <支出>

支出項目	支出内訳（単価×個数）*	金額
<謝金>	韓コ協連への土産（煎餅）¥5,400×1 韓国青年への土産（菓子）¥1,665×1	¥ 7, 0 6 5
<旅費>	航空券 ¥192,270×1（3名分）+¥64,730×1名 ホテル ¥95,700×1（4名分） DMZ ツアー ₩52,000×4名（約¥5,714×4名）	¥ 3 7 5, 5 5 6
<印刷製本費>	コピー用紙 ¥1,650×1 インクカートリッジ ¥1,578×1	¥ 3, 2 2 8
<消耗品費>	韓国民族衣装 ¥13,800×1 韓国伝統帽子 ¥5,900×1	¥ 1 9, 7 0 0
<雑費>	拝観料、韓国での食費および交通費 計₩511,600（約¥56,220）	¥ 5 6, 2 2 0
合 計		¥ 4 6 1, 7 6 9

\*為替レートは1円=9.1ウォン（当時）として計算。

決算 <収入>

	内訳	金額
自己資金	会費等	¥ 1, 7 6 9
参加費収入	¥ 60,000×2名（青年部） ¥ 70,000×2名（理事）	¥ 2 6 0, 0 0 0
日本ユネスコ協 会連盟助成金	¥ 200,000×1	¥ 2 0 0, 0 0 0
合 計		¥ 4 6 1, 7 6 9

# 1 訪問先の紹介

---

- (1) 西大門刑務所歴史館
- (2) DMZ・第3トンネル
- (3) 韓国青年とのディスカッション

## (1) 西大門刑務所歴史館

---

西大門刑務所歴史館は、1908年に京城監獄、1912年に西大門監獄、1923年に西大門刑務所、それから何度か名前を変えていき、現在は、西大門刑務所歴史館となっている。この場所は、1988年2月27日に国家史跡指定とされ、2007年10月18日に国家顕忠施設に指定されている。

西大門刑務所は、日本統治時代、韓国人の独立運動家たち、また解放以降にも民主化を成そうとした民主化運動家を投獄した場所である。今は歴史館となっており、韓国の小学生たちなどの社会科見学だけではなく、若いカップルたちも多く見受けられた。

ここには展示館、中央舎、獄舎、工作舎、死刑場、炊事場などが見学可能である。

展示館1階には、刑務所の歴史などがパネルなどでまとめられており、当時のものなども展示されている。映像室もあった。

展示館2階には民族の抵抗、独立運動がテーマとなっており、独立運動の軌跡が展示されている。そのなかでも一番印象的であったものは、独立運動家受刑記録表が飾られている部屋だ。ここには、独立運動をおこし、投獄されていた人物の写真が壁一面に飾られている。その数は、現在約5000枚以上あるとされている。当時、朝鮮の人々が猛烈に抗っていたことが、容易に感じ取れる場所であった。



展示館地下には、拷問室が再現されている。模型を用い、実際に行われていたことが再現されており、また実際に拷問道具の中に入ったり、手錠をつけてみることもできた。



中央舎は第 10、11、12 獄舎と繋がり獄舎全体を監視し統制するために作られたものである。1 階は看守の事務空間。ここを使い獄舎に出入りした。2 階は全体を講堂にし、収監者の教会堂、つまり転向教育の場所として利用した。囚人の衣食住にかかわるものなども展示されていた。



そして終盤には死刑場を見て回った。裁判がその場で行われ、判決が下されると、すぐ後ろで刑が執行されるというシステム。ここでは、それ以上に印象的なものがひとつあった。死刑場を囲む壁の内側と外側に一本ずつポプラの木が植えてある。ほぼ同時期に植えてあるそうだが、しかし壁の内側に生えているポプラは明らかにやせ細っており、逆に外側の木は、たくましく育っているのである。これは慟哭のポプラといわれており、たくさんの死刑囚が、泣いてしがみついていたので、その無念や怨念を木が吸ってしまい、成長できなかったのではないかとされている。



西大門刑務所を見て回った感想は、あまり日本人の私たちは気分のいいものではなかった。やはり韓国側の目線で歴史が語られているというのもあるが、実際に本物を見ることにより、学校では習えないもの、事実を学ぶことができることで、私の考えていた以上のことが行われていたと認識させられたからである。しかしこの事実から目を背けてはいけないので、しっかり受け入れていきたい。(井口 大夢)

## (2) DMZ・第3トンネル

歌にもなり、映画「パッチギ！」の中でも会話に出てきたイムジン川（臨津江）。この川を挟んで韓国から北朝鮮を見ることができます。軍事境界線が近いと南北分断の悲劇を語るときに用いられることがしばしばあります。

1945年8月日本軍の武装解除のためアメリカとソ連が振り分けた行政的線である38度線と、1950年に起きた朝鮮戦争の結果、1953年7月27日に休戦線である軍事境界線とそこから南北2kmずつを非武装地帯（DMZ）とする設定がされました。

休戦協定からまもなく70年を迎えようとしています。一般人の立ち入りが厳しく統制され緊迫状態が今日でも続いています。しかし、韓国を訪れた外国人にとっては有名な観光地の一つであるかもしれません。今回、私たちが参加したツアーでは、イムジン川沿いにバスが走り、第3トンネル・都羅山（トラサン）駅・都羅展望台という分断の歴史を感じられるスポットを巡りました。



都羅山駅は韓国最北端の駅であり、ソウル駅から58km、北朝鮮の首都・平壤（ピョンヤン）駅まで205kmという場所に位置しています。駅のロビーには、将来南北の列車が連結し、ユーラシア大陸全てと列車でつながることができる地図が置かれていました。都羅展望台は、晴れたときは北朝鮮の開城（ケソン）の街並みも見ることができます。展望台の横の建物には「分断の終わり、統一の始まり」と書かれてあり、南北統一への願いが込められていることが感じられました。



南北で休戦協定を結んだ後、脱北者の証言を元に北から南へ侵入するために掘られたとされるトンネルが見つかりました。見つかった順番ごとに1・2・3...と名前が付けられました。3番目に見つかった第3トンネルは、1978年10月17日、軍事境界線にある板門店（はんもんでん／パンムンジョム）から約4km、ソウルからはわずか52kmしか離れていない地点で発見されました。

地下73mに掘られたトンネルは、幅2m、高さ2m、全長約1.6km。見学では、軍事境界線まで約200mのところまで見学することが可能です。トンネルの南側の出口は3ヶ所に分かれており、北朝鮮の兵士が1時間に3万人移動できる規模だといわれています。また、このトンネルは南に気づかれないようにするため人力で掘ったとされ、ダイナマイトを入れるためであろう作られた穴は、ソウルの方向を向いています。

なぜ北朝鮮はトンネルを掘ったのでしょうか？それは天候に左右されないからだといわれています。外に雪が積もり寒くても、トンネルの中は植物園にいるかのような熱気を感じるときもありました。これからもトンネルが見つかっていくかもしれませんが、現在見つかった全



てのトンネルから兵士が韓国へ侵入すると1日でソウルを落とすことができ、1週間で釜山まで落とすことができると言われています。

第3トンネルの見学入口付近には地雷注意の札をよく見かけました。DMZにとっても恐ろしいイメージを持ってしまうかもしれませんが、人間の出入りが統制された故に自然保全状態が保たれ、生態系の宝庫とも呼ばれています。面積907k㎡の中には、朝鮮半島に生息する2900種以上の植物のうち1/3が、70種余りの哺乳類のうち1/2が、320種の鳥類うちの1/5がここで発見され、多くの天然記念物と絶滅危機種及び保護野生動植物が生息しています。

同じ言語を話す同じ民族が依然分断された状況であることに違和感をもち、南北統一を願い、近くて遠い隣国、韓国・朝鮮半島を理解するためにコスメや料理だけでなくこのような場所にも訪れてほしいなと思います。（小林 穂菜美）

### (3) 韓国青年とのディスカッション

韓国ユネスコ協会連盟のご協力により、韓国青年と「日韓文化の比較」をテーマとしたディスカッションをおこないました。トピックは若者の間で最近流行っていることや学生生活について、さらには学校での歴史の教わり方、韓国と北朝鮮の関係まで幅広く取り上げました。ディスカッションに参加した韓国青年たちは日本に強い関心を持っており、お互いに興味の赴くまま活発に議論をおこないました。

#### ■参加者とディスカッションの概要

参加者は計7名であり、韓国側が大学生2名、高校生1名の計3名、日本側が大学院生1名、大学生2名、理事1名の計4名でした。なお韓国人高校生のカン・ミンジさんは当協会のサマーキャンプ（昨年8月実施）に参加したことがあります。会場は韓国ユネスコ協会連盟の事務所ビル（ユネスコ・ハウス）12階のカフェテリアでした。

当初ディスカッションは午前中で終わる予定でしたが、議論が盛り上がったため、昼食をはさんで午後も引き続きおこなわれました（場所は近くの喫茶店へ移動）。ディスカッションのトピックは、①若者の流行、②大学生の長期休暇の過ごし方、③修学旅行、④ソウルを訪れる日本人観光客の特徴、⑤和食のイメージ、⑥韓国の受験競争、⑦就職事情、⑧学校での歴史の教わり方、⑨韓国と北朝鮮の関係、⑩日本人の本音と建前でした。次ページ以降で詳しい内容を紹介します。

韓国青年メンバー		
チョイ・ダンビン	大学生	女性
ホン・スージー	大学生	女性
カン・ミンジ	高校生	女性



ディスカッションの流れ	
10:00～11:30	前半（カフェテリア） ①若者の流行 ②大学生の長期休暇 ③修学旅行 ④ソウルの日本人観光客 ⑤和食のイメージ ⑥韓国の受験競争 ⑦就職事情
12:00～13:30	昼食
14:00～15:30	後半（近くの喫茶店） ⑧歴史の教わり方 ⑨韓国と北朝鮮の関係 ⑩日本人の本音と建前

## ■ディスカッションの内容

前半では主に日韓両国のライフスタイルについて議論をしました。まず日本の若者の間で流行っていることとして、男性のヘアースタイルといわゆる「壁ドン」が挙げられました。日本人の若い男性は両サイドを刈りあげるカットを好んでいますが、韓国人女性から見ても好印象のようで、「ダンディ」、「ジェントルマン」、「セクシー」といった感想が聞かれました。「壁ドン」とは、壁を背にした女性に対して男性が壁をドンと叩き、その仕草に女性がときめくというものです。韓国人女性はまだピンとこなかったようですが、強い男性にはあこがれるとのことで、その点では共通するものがありました。

次に大学生活へと話が移り、夏休みや春休みなどの長期休暇をどのように過ごしているかが話題になりました。日本でも韓国でも旅行をする学生が多いものの、韓国では将来に備えた準備をする学生が多いとのことです。例えば語学（人気があるのは主に英語、中国語、日本語）の勉強やインターンシップなどです。日本よりも韓国の学生の方が就職に対する危機意識が高く、卒業を延ばしてまでキャリアアップに専念する人もいるそうです。同時に自身の関心のあることを仕事にしたいという思いもあり、就職先については時間をかけて考えるとのことでした。一方、日本ではそこまで就職先にこだわりを持つ学生は多くないのではという意見が出ました。

韓国の高校生活については、修学旅行先として慶州（キョンジュ）を訪れる学校が多いそうです。慶州は朝鮮半島南東部に位置するかつての新羅王朝の都であり、韓国有数の歴史文化都市です。これは日本であれば京都・奈良に相当します。歴史遺産を巡るという点で日韓の修学旅行には共通点があると言えるでしょう。しかし韓国では昨年4月に発生したセウォル号沈没事故のあと、修学旅行のキャンセルが相次いだそうです。

韓国の学生（高校生以下）にとって最大の関心事は何と言っても受験でしょう。韓国の受験競争の厳しさは日本でもよく知られていますが、ディスカッションに参加した韓国青年たちからも、小学生が入試の時間中に教室から飛び降り自殺をして、それがニュースになったという生々しい話を聞きました。受験生はよい大学に受かるまで何回も試験を受け直し、親も子どもをよい大学に入れようとするそうです。韓国青年の1人は、厳しい受験の時期を終え、大学に入学してからが本当の「スタート」であるとも言っていました。日本でも受験競争はありますが自殺者が出るほど過酷な状況ではありませんし、一貫校も増えてきているため、韓国と比べて厳しいものではないと言えるでしょう。

ディスカッションの前半では、ソウルを訪れる日本人観光客や和食に対する韓国人のイメージも取り上げられました。日本人がよく訪れるソウルの観光スポットはドラマ撮影地だそうです。これは明らかに日本で放送されている韓流ドラマが影響していると言えます。最近では中国人観光客が「冬のソナタ」の撮影地を訪れることもあるそうです。和食については韓国でもよく浸透しており、例えば寿司、すきやき、お好み焼き、うなぎ、丼物がイメージとして浮かぶそうです。韓国青年の1人は丼物を韓国のビビンパと勘違いし、食べる際に具とご飯を混ぜってしまったことがあると、笑い話を披露してくれました。

昼食をともにしたあとディスカッションが再開され、後半では学校での歴史の教わり方、韓国と北朝鮮の関係、日本人の本音と建前について議論がなされました。まず韓国の学校では日本と同じように、古代から現代までの通史である「韓国史」を学ぶそうです。昔は近代以前と近代以後の選択制でしたが、現在ではすべての時代が対象となっています。また2009年より文系理系問わず「韓国史」が必須の科目となり、公務員や外交官などの試験を受ける際に、その修得を証明するライセンスが必要になるとのことでした。これは韓国の若者が自国の歴史を知らないことが国家の問題とされたからだと言われています。なお日本のことが「韓国史」によく出てくるのは近代から現代にかけてだそうです。

次に韓国と北朝鮮の関係について韓国青年たちに意見を聞いてみました。彼らは将来的な統一を望んでいるものの、そのためには解決しなければならない課題がいくつもあり、統一するには時間がかかると述べていました。具体的には、統一のモデルとしてドイツを挙げ、韓国が北朝鮮を支援する必要性は感じている一方で、両国の間には経済的・文化的な違いが存在し、また中国と北朝鮮の外交関係も考えると、南北で協力することは容易ではないと話していました。

ディスカッションの最後に日本人に対するイメージについて尋ねてみました。とくに本音と建前を使い分ける（と言われている）日本人をどのように思うか質問してみたところ、「社会に出れば誰でも本音と建前を使い分ける」、「日本人全員がそうとは限らず、個人によって違う」、「韓国人の中にも使い分ける人がいる」とコメントしてくれました。さらに日本人は道を聞くと親切に教えてくれると実体験に基づいた感想を述べていました。おそらく日本側に気を遣って日本の悪いイメージについては発言を控えたのではと思いますが、日本人ないし日本文化のよい面を見出そうとする姿勢には見習うべきものがあると感じました。韓国文化についても理解が深まりとてもよい勉強になりました。（岩野 智）

## 2 ツアー報告会

---

(1) 報告会の内容

(2) 来場者の感想

## (1) 報告会の内容

ツアー帰国後の2015年1月10日（土）セシオン杉並・視聴覚室にて、主に中学生を対象とした報告会「そうだったのか！ 韓国の歴史と文化 — 青年部による韓国スタディツアー報告」をおこないました。当協会の青少年事業である「中学生クラブ」の時間を利用して、国際理解の一環として中学生に韓国の歴史・文化を学んでもらい、将来の日韓友好について考えてもらいました。参加した中学生は19名、その他にも高校生・大学生3名、外国人5名、会員・非会員の大人6名の計33名が来場しました。

### ■全体の流れ

右表にあるとおり、まず韓国についての基本情報として、国土面積や人口、首都、民族構成、言語、宗教を紹介し、韓国の祝日に関するミニクイズをおこないました。

次に前章「訪問先の紹介」で述べた内容をそれぞれ説明しました。西大門刑務所歴史館では、刑務所が建てられた歴史的背景、刑務所内部の様子、刑務所が現在どのように利用されているかなどを紹介しました。DMZ・第3トンネルでは、朝鮮戦争の経緯、DMZ周辺と第3トンネル内部の様子を動画交じりで紹介しました。韓国青年とのディスカッションでは、各報告者が印象に残ったトピックを取り上げ（例えば大学生活や受験・就職事情、韓国と北朝鮮の関係など）、韓国側の意見を紹介するとともに自身で考えたことも述べました。

最後にまとめとして、将来の日韓友好のために最も重要なことは両国民が互いの国を理解することであるとし、そこで日本人が韓国を理解するために「韓国の歴史を知ること」、「自分の目で韓国を見てみること」、「韓国人と実際に話してみること」の3点を強調して伝えました。

報告内容	報告者
韓国の基本情報 ミニクイズ「韓国の祝日」	岩野
西大門刑務所歴史館	井口
DMZ・第3トンネル	小林
韓国青年とのディスカッション	全員
まとめ	岩野



## ■中学生の反応

中学生たちは日本が韓国（朝鮮）を侵略した歴史についてあまり知らない様子で、西大門刑務所歴史館の説明に興味深そうに聞いていました。また朝鮮戦争を契機として韓国と北朝鮮の関係が悪化していった経緯についても、詳しく知っているわけではありませんでした。その点では今回の報告は中学生にとって初めて聞く内容が多く、意義のあるものになったと思います。ディスカッションの内容についても、普段見聞きしている韓国とは違う印象を持ったようで、韓国の新しい一面を見出すよい機会になったのではないのでしょうか。以下では中学生を含めた来場者の感想を紹介します。（岩野 智）

## (2) 来場者の感想

報告会において右のようなアンケートを配布し、印象に残った報告や、韓国について新しく知ったこと、学んだことなど、自由に感想を記入してもらいました。

▶ 普段イメージしている韓国の印象と違って、今日の報告を聞いてみてよかったです。韓国と日本の歴史の違いが分からないから調べてみたい。また、同じ民族で争い合っていることが分からないから知りたい。

▶ 韓国は日本と比べ、受験や就職の競争が激しく大変だと思った。同じアジアの国ですぐ隣の国だが、大学に入学することに対する視点が違い驚いた。韓国は自国の歴史を大切にしている国だと思った。

▶ 韓国は受験戦争が激しいので、日本に生まれてよかった。西大門刑務所歴史館に行きたいと思った。

▶ （西大門刑務所歴史館の説明を聞いて）韓国の人は日本に少し悪い印象を持っていることを知った。韓国の受験戦争の激しさに少し驚いた。自殺してしまう人もいることに驚いた。北朝鮮と韓国の仲の悪さは思っていた以上だった。

杉並ユネスコ協会 中学生クラス (2015年1月10日)  
**そうだったのか！韓国の歴史と文化**  
— 青年部による韓国スタディツアー報告 —  
アンケート・感想表

1. ミニ・クイズの回答

①	②
宇宙の中心、高貴	色   情熱と愛情、積極性   色
万物が生まれる春	色   人間の知恵   色
潔白と真実、命、純潔	色   色

2. アンケート  
次のうち、一番印象に残った（興味を持った）報告はどれですか。その理由も教えてください。

(1) 西大門刑務所歴史館  
(2) DMZ・第3トンネル  
(3) 韓国青年とのディスカッション

番号	理由

3. 感想  
報告を聞いて、韓国について新しく知ったことや、疑問に思ったことなどを書いてください。

ご協力ありがとうございました！ 감사합니다！！

▶ 韓国の人が日本人に優しくしてくれるのはうれしいけど、（西大門刑務所歴史館で韓国人の子どもたちが偏った説明を受けることもあるということを知って）洗脳みたいな教育をするのはどうなのかなと思った。

▶ 昔の大人が自分たちと同じことを子どもに教えるのは違うと思った。今は今、昔は昔だから。

▶ 日本が韓国を占領していたのは知っていたけれど、刑務所で韓国人にしていたことを知って、とても複雑な気持ちになりました。今、修学旅行で原爆のこ



とを詳しく勉強しているので、加害者であることを念頭に置きながら学びたいと思います。

▶ 北朝鮮が韓国につながるトンネルを造っていたことは知らなかった。（掘削のための）ダイナマイトを入れる穴には驚いた。日本人が造った刑務所は（獄舎を監視しやすくするため）扇形にしてあるなどの工夫があると聞き、そのアイデアがすごいと思った。しかしすごい複雑な気持ちにもなった。



▶ 日本がとてもひどいことをしたので嫌っているのかと思ったら、日本に興味を持っている人がいると聞いてびっくり、嬉しかったです。日本と韓国がもっと仲良しになってほしいです。

▶ 今の日本人と韓国人がお互いについて知り合うというのは、これからの世界のために必要だと思った。

▶ 韓国人の大学生が（就職準備などで）そんなに大変とは知りませんでした。そして今年はいろいろな節目の年のようなので、日本との間で何が起こるか注目したいと思います。

▶ あまり韓国について興味がなかったけれど、今回の授業を通じて、歴史のことも含めて少し韓国に興味を持つことができました。

▶ （韓国については）日本人でも知らない人が多いので、もっとさまざまな人が知るべき。

▶ 日本も北朝鮮も韓国とギクシャクした関係でなく、もっといい関係になったらいいなと思いました。お互いにその国のことを理解し、尊重し合うことが大切だと思いました。

### 3 参加者の感想

---

(1) 小林 穂菜美

(2) 井口 大夢

(3) 岩野 智

(4) 板倉 徳枝

(5) カン・ミンジ

## (1) 小林 穂菜美

---

「国ではなく人と人のつながり」

今回で韓国のスタディツアーの参加は4回目となります。友人からまた韓国行ったんだと言われることもあります。ですが、毎回全く同じという訳ではありません。前回と同じ場所を訪ねてもそのときの日韓の関係性などの影響からか町の異なる雰囲気を感じられ、少し不思議な気分になると同時にこのツアーの魅力ではないかと思います。

第3トンネルや西大門刑務所をはじめとし様々な施設や町を訪れましたが、今回のツアーで特に印象に残っているのは韓国の学生とのディスカッションです。

これまでのスタディツアーでよく話をしていたディスカッションのテーマとしては、そのときの韓国の若者の流行や日本からの観光客についてなど文化がメインでしたが、今回は歴史の学び方を切り口に北朝鮮に関しても向こうの学生たちは真剣に考え答えてくれた解答には驚きと感謝の連続でした。学生1人の意見ではなく、その場にいた学生皆が前向きな考えを持って未来を見据えていたのに好感をもてました。テレビやインターネットなどのメディアでは分からない韓国の姿がここにあるのではないかなとまで大げさかもしませんが、そう感じたほどでした。

また、もう一つ印象的だったのは、いっしょにツアーに参加したメンバーのリアクションです。韓国以外に他の国を訪ねていると日本と異なることに会う場面が何度もありますが、特に違和感なく受け入れてしまう私がいまいました。しかし、今回共に行ったメンバーの1人、はじめて韓国を訪れた彼は一つ一つに反応していました。時には日本とは違ってお客さんへの対応に対して怒りを覚えている場面もありました。韓国はこういうことがある所なのだと思ってしまう私にとって、彼の目から見た韓国はとても新鮮に感じました。

このような感覚の違いから異文化を理解することがはじまるのかと考えました。ヨーロッパの方から見れば日・韓・中の人々はほぼ同じように捉えていることと思いますが、私たちは陸続きの隣国でなくそれぞれ独自の文化もあるし、きちんと向き合わなければいけない過去もあります。学生で強い力のない私たちにできることは互いの国を想い、見えない国境を気にするのではなく、見える人と人とのつながりを大切に繋いでいくために、私たちの感じた韓国を伝えていく草の根運動からはじまるのではないかと、今回のスタディツ

アーに参加し改めて考えさせられました。メディアの影響から良い印象を相手国に対し持っていない人々も少なくありません。メディアが全てではない。将来、より良いパートナーとなれるよう自分のできることを小さくても積み重ねていけたらと考えています。

最後となりますが、今回のツアー開催にあたってご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。また機会がありましたらこのスタディツアーに参加したいと思っています。

## (2) 井口 大夢

---

僕は、今回初めて韓国に行かせていただきました。正直に言うと韓国よりも、リゾート地の方が行きたく、こういう機会がなければ100%行ってないだろうと思います。

今、日本と韓国の友好関係が長く問題視されている中、僕自身は韓国が嫌いや苦手という意識は全くなかったけれど、韓国に行ったときに日本人はどのような目で見られるのであろうかという心配がありました。しかしその心配も、韓国の人々と接すれば接するほどに無くなっていきました。

韓国の歴史を学ぶ機会は今まではあまりなく、観光ではなくスタディツアーという形で参加できたことはこれからの自分にとって大きなものになると思います。特に自分の中にあった韓国との壁や距離感がなくなったことは、身近なひとへ伝える事で周りに影響をもたらせると思います。それだけでははっきり全員が全員韓国への壁をなくせるとは思いませんが、自分の経験を活かし周りを引き込むことができれば幸いです。

自分が報告書、発表を担当した西大門刑務所は、韓国スタディツアーの中で一番印象的だと感じました。日本の行っていた残虐なことや、日韓の歴史が顕著に感じられるところでした。とても興味深いものばかりで、きっと普通に生活していたら、こんなところへ来ることもできないし、学ぶこともできなかつただろうと思います。

スタディツアーは本当に無駄がないなというのも実感しました。行ってつまんなかったと感じることは一度もなかったし、むしろもっと学んでみたいなと思ったり、疑問が増えたりと、いいことだらけでした。

韓国はやはり食べ物も美味しく、辛いものが苦手だった自分も今は、苦手だけど大好きになりました。

お店の店員さんとも、日本人と韓国人だからできる話もできたし、韓国にあまりいい印象を持っているひとは、一度実際に訪れて、実際に韓国という国を自分自身で感じるべきだと思いました。

またこういう機会があればぜひとも参加させていただきたいです。

### (3) 岩野 智

---

韓国スタディツアーの企画者として、今回のツアーは思い通りにいかないことがこれまでより多かった気がします。まず参加者が集まらなかったこと。日本ユネスコ協会連盟より20万円の助成金をいただいたにもかかわらず、参加してくれた青年部は2名でした。人数が多ければよいというわけではありませんが、できるだけ多くの若者に本物の韓国を見てほしかったと思います。次に韓国での出前授業ができなかったこと。今回のツアーの企画当初、韓国ユネスコ協会連盟を通じて韓国の学校で日本文化を紹介したいと思い、これまで国内でおこなっていた出前授業の海外進出を目指していました。残念ながら先方の都合が合わず、企画を変更せざるを得ませんでした。そして何と言っても経費の問題です。年末の大型連休とちょうど重なり、渡航費が天文学的数字になってしまいました。また円安も影響して現地での食費などがいつもの1.5~2倍かかってしまいました。

いろいろ愚痴をこぼしてしまいましたが、それでは今回のツアーが悪かったかと言えばそのようなことはありません。青年部から参加してくれた小林さんは今回で4回目の参加であり、プライベートでもソウルを訪れるほどの韓国好きです。一方、同じく青年部の井口君は韓国で何か学べるのではという好奇心から、初めて本ツアーに参加してくれました。2人の動機は違いますが、このツアーが何かしら興味を引き起こさせるものであることは確かです。いつもツアーに同行していただいている板倉理事も「同じ国には何度も行かない」と仰っていますが、韓国は別のようなようです。しかし参加者の中で一番韓国に取り憑かれているのは、誰であろう私自身だと言えます。韓国の魅力を言葉で表すのは非常に難しいです。ただ、さまざまな外国人の中で最も親近感を覚えるのは韓国人ですし、勉強やスポーツで競争心に火がつくのもやはり韓国人です。よき隣人でありよきライバルでもある韓国人は、日本人と切っても切れない仲なのだと思います。

少し“近所”の様子をのぞきに、また来年度もソウルの街に出かけてみたいと思います。

#### (4) 板倉 徳枝

---

「韓国スタディツアー2014 Uncomfortable」

2年ぶりのソウル訪問だ。にぎやかな明洞、何年か前までは日本語が飛び交い、客引きのお兄さんたちに何度呼び止められただろう。今は日本語で呼び止められることもなく、面倒くさくないと言えば、そうだが、ちょっと寂しい気もした。あるお土産屋さんを訪れたとき、日本語が流暢なその女性店主と会話が始まった。私達よりも日本のニュースに詳しく、小淵優子さんのこと、安部首相のこと、等々私達の意見を求められた。慰安婦問題、我々日本人の歴史認識、そして謝罪を求められたときは、凄かった！西大門の旧日本軍刑務所跡へ行った時も凄かった！休日のせいでもあったとは思いますが、とにかく大人気の場所で子供たちを含む多くの見学者がいた。先生またはボランティア、どちらかは分からないが、ものすごく力を入れて子供たちへ展示物の説明をしていた。内容は分からないけれど、決して日本はいい国だという説明ではなかったと思う。これでは、憎しみを止めることはできない。西大門を訪れるといつも私の希望が薄れてしまう。

一方、韓国ユネスコ協会でのディスカッションセッションは韓国ユ協の暖かいもてなしのお陰様で楽しく有意義なものとなった。キャンプへ参加してくれたキャンプ・プリンセスのミンジが参加してくれたことも、このセッションを大いに盛りあげた。韓国と日本の関係が私たちのようだといいのだけれど。

最近、私の家にヨーロッパから2人の若者がやってきた。一人はタイ人のパット（スイス在住）、もう一人はエリック（フィンランド人）。その2人が同じ質問を私にした。「日本は戦争中あのようにひどいことをしたのにどうして韓国に謝罪をしないのですか？」つまり、「韓国人女性を拉致し、レイプし、奴隷にしたでしょ」と言われた。私は私の意見を彼らに伝えたが、この2人が同じことを私に問いかけたということは、世界の多くの人たちもそう思っているのだろうか？

世界では今日も今この時も銃が撃たれ誰かが殺されているかもしれない。どうしたら、この憎しみの連鎖を‘希望と愛のはさみ’で切ることができるのだろうか。今年の韓国スタディツアーは失望と居心地の悪さをわたしの心の中に残した。

## (5) カン・ミンジ

---

「世界各国の人とコミュニケーションすることは楽しい。」

これが、私がバングラデシュのボランティアと一週間の訪日研修、そして YFU 短期留学のユネスコキャンプを経験した後に得た信条です。外国語を勉強するのが好きで、また、世界の文化に関心が高かったため世界化に見合う国際市民になることが私の目標であり、その理由で昨年夏に参加したユネスコキャンプでは、世界のいろんな国の人たちとコミュニケーションができる良い経験でした。

そしてその縁で、同年冬には韓国の首都、ソウルでミーティングを持ちました。韓国ユネスコ本部で韓国の大学生たちと日本の大学生たちが一緒にお互いの文化を学ぶため、そして理解するために英語で行われたディスカッションはどんな討議より真摯だったし、有益でした。

そんなすごいディスカッションに参加することができてすごく嬉しいし、有益でした。また、「世界」という舞台の上で見聞を広げられるようにしてくれたこの縁は大切だと思いました。

もっとも印象的だったのは、韓国人と日本人という異なる国籍の間で歴史について討議をしたことでした。両側いずれも全然感情的ではなく理性的な歴史トークを進行しました。侵略の歴史と植民地の歴史を持つ両側が争うことなく一緒に未来のために話をするのは、今後の世界の若い人たちが備えなければならない素養だと思いました。

一緒に笑いながらゲームをしたユネスコのみんなとは、前とちょっと違う方向の真摯な話をしましたが、むしろ風変わりな楽しみがありました。

韓国と北朝鮮に関することは、我々の世代が背負ったもっとも大事な争点の一つであり、できるだけ一生懸命説明できるよう、これからもっと外国語の勉強に邁進しなければならないと考えました。

これからもいろんな国家の人たちと友達になって一緒に勉強したいです！そして日本語ももっと上手になってユネスコキャンプにもう一度も参加したいです。

ありがとうございました。

## 写真



▲景福宮・国立民俗博物館の屋外展示場



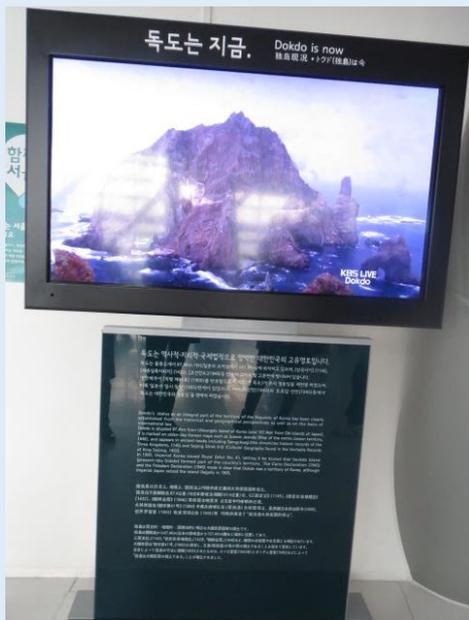
▲韓国青年とのランチタイム（プルコギ）



▲ソウル市庁舎の旧市長室（一般公開）



▲徳寿宮正門前での王宮守門將交代儀式



▲市庁舎内での独島（竹島）のライブ映像



▲中学生クラブで韓国民族衣装を試着

## あとがき

---

本報告書の作成を終えて、今年度も無事に韓国スタディツアーが実施できたことを実感しています。最近の悪化した日韓関係を考えると、ツアー中に不測の事態が起こることもあり得なくはありません。ちなみに前回（2013年12月）のツアーでは、初日にちょうど安倍晋三首相が靖国神社を参拝して、参加者一同とても緊張した記憶があります。しかしソウルの街の人々は私たち日本人を温かく迎えてくれました。

今回のツアーでも、例えば街なかに「独島は韓国の領土」と書かれた垂れ幕がありましたが、日本人観光客が困縁をつけられるようなことは一切ありませんでした。民間人の交流と政治的な対立は別の話なのです。これは日韓両国が長い歴史の中で築き上げてきた、共存のための1つの知恵なのかもしれません。日本国内では「反韓・嫌韓」を掲げる本が売り上げを伸ばしていますが、それはせつかくの共存の知恵を台無しにしてしまいかねません。相手の好き嫌いを論じる前に、まずは相手のことをよく知ることが大事なのではないでしょうか。本ツアーはその観点から、韓国についての“生きた学習の場”を提供していると言えます。

本報告書を締めくくるにあたり、ツアーをともに楽しんだ参加者の方々にお礼申し上げます。また本ツアーの企画を後ろから支えてくださった杉並ユネスコ協会の皆様、そして資金面で援助してくださった日本ユネスコ協会連盟の皆様に感謝申し上げます。最後に、長時間にわたりディスカッションにお付き合いいただいた韓国青年の皆様とそのセッティングにご尽力いただいた韓国ユネスコ協会連盟の皆様に、心より感謝の意を表したいと思います。また来年度もお会いできることを楽しみにしております。

岩野 智

第 8 回韓国スタディツアー（2014 年）  
報告書

発行日 2015 年 3 月 14 日

発 行 杉並ユネスコ協会

U R L <http://suginami-unesco.org/>

編 集 岩野 智（杉並ユネスコ協会）



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



杉並ユネスコ協会